



第348号 平成19年7月1日

発行所 京都市学校医会

京都市中京区間之町通竹屋町下ル

楠町601-1 こどもみらい館 2階

TEL (075) 256-0351

FAX (075) 241-3568

発行人 長村吉朗

教育委員会との懇談会

会長 長村吉朗

6月9日に恒例の京都市教育委員会との懇談会が開催されました。教育委員会よりは門川教育長、山本体育健康教育室長、富田課長、金安課長補佐の4名、学校医会よりは私の他、奥村・平位両副会長、林専務理事、竹内常任理事、有井顧問、佐野眼科学学校医会副会長、星谷耳鼻咽喉科医会理事の8名が出席いたしました。

まずはじめに、本年9月22日に予定しております学校医会創立100周年記念事業に対する教育委員会の協力に感謝申し上げ、協議に移りました。まず初めに、新聞等で報じられており問題となっている麻疹の流行に対しての協議を行いました。流行が報道されるとすぐに教育委員会に申し入れ、麻疹の感染がわかり次第その子供の通学する学校名とその児童の予防注射の接種の有無を毎日報告することといたしました。しかしながら、京都の市立学校におきましては感染者数はきわめて少なく、懇談会の時点においては児童6名の感染が報告されてきたのみでした。当初感染者が急増するようであれば対策を考えなければならないと思っておりましたが、京都市は2001年に大流行がありました為、今回の関東を中心とする流行以前に免疫がかなりついていることが考えられるかと思えます。ともあれ、この文章が皆様方の目に触れる7月下旬には既にこの騒ぎは終息していることと思えますが、今後の流行を防ぐためにも、昨年度よりやっと実施されましたMRの二回接種を、現在この対象から外れてしまった小学2年生以上の児童に対しても公費による2回接種を実現するため、今後京都市に働きかけていかなければなら

ないと竹内小児科医会会長と話し合っております。又2年前より積極的な推奨が控えられてる日本脳炎の予防接種についても新タイプのワクチンの開発に手間取ったまま、当時の4年生は13歳の接種期限が切れようとしている現状を説明し、現在学校において日本脳炎ワクチンの問診票の配布が行われていないためそのことに気がつかない保護者が大部分と思われる。そのワクチンの必要性を教える文章を配布することが出来ないか今後訴えかけていくこととしました。次に、学校におけるエイズ教育の推進につき協議を行いました。昨年の松江における全国学校保健学校医大会の場におきまして報告されました東京におけるエイズの状況（昨年12月号巻頭言にて記載）を知り、エイズ教育の不十分さとその重要性を再認識したため、いろいろな考えを持つ人の絡む性教育から切り離し、子供たちに対する感染症予防教育としてのエイズ教育を推進するため、医学的知識を持つ学校医がエイズ教育に積極的に協力していくつもりであることを教育委員会に申し入れました。又AEDの設置につきましても、昨年と同様に心臓検診の結果を基にした危険性の高い児童の在籍する学校への重点配備をお願いいたしました。又養護支部会（本年度より総合支援学校支部に改称）において希望の有りました障害と出生時の状況の調査を依頼いたしました。昨今の状況ではアンケート調査は困難であるとの回答でしたが、対象児童の特殊性を考え定期の健康診断時に保護者の付き添いを可能とし、その場において保護者より聞き取ることでより深い健康指導が行えるのではないかと考え、今後

総合支援学校支部とも話し合っていたと考えております。これら多くのことを話し合い1時間以上

の時間にわたり協議いたしました。実り多い協議となったと考えております。

京都市立学校・園長会と懇談会

専務理事 林 鐘 声

7月7日(土)、京都市学校医会が呼びかけた懇談会を木乃婦にて行いました。従来より、市立小学校長会、市立中学校長会とそれぞれ継続的に懇談会を開催してきましたが、共通する問題もあることから一度合同でと考えていたところ、今回、市立幼稚園長会、市立高校長会、総合支援学校長会も加わって、5団体との合同懇談会を初めて行うこととなりました。出席者は下記の20人でした。

【学校医会】

会 長	長 村 吉 朗 (今熊野小)
副 会 長	奥 村 正 治 (福西小)
副 会 長	平 位 喜七郎 (洛北中)
専務理事	林 鐘 声 (北野小)
常任理事	蘆 原 亨 (小野小)
顧 問	有 井 悦 子 (養徳小他)
耳鼻咽喉科	星 谷 徹 (仁和小他)
眼 科	原 山 憲 二 (岡崎中他)

【校園長会】

幼 稚 園	杉 田 幸 子 (竹田幼)
〃	杉 浦 由 里 (翔鸞幼)
小 学 校	川 部 松 夫 (醍醐西小)
〃	富 田 剛 史 (白川小)
中 学 校	米 田 充 (嘉楽中)
〃	森 田 正 和 (近衛中)
高 校	濱 中 直 志 (紫野高)
〃	松 木 博 (日吉ヶ丘高)
総合支援	重 光 豊 (呉竹総合支援)
〃	奥 田 信 一 (北総合支援)

体育健康教育室 保健課長 富 田 智 晴
〃 担当課長補佐 金 安 修

自己紹介のあと、各団体相互の連携のあり様について学校医会から質問することで協議を始めました。嘉楽中学校では入学してくる生徒の4小学校の養

護教諭との連絡会を各学期ごとに開くなど、非常に緊密で良好な関係を作っていることが紹介されました。他の小中学校連絡会は年に1回程度と伺いましたが、中学校の場合は近くの数校の小学校の生徒が入学する地域性が強いことから小中学校間の連携はよくとれているようです。それに比べると高校は広い範囲から生徒が集まるため、問題をかかえている生徒については入学前に養護教諭がその中学校へ出向くなどしているものの、中高等学校の連絡は緩いものとなっているようです。小学校は市立幼稚園から入学する児童は少なく、私立幼稚園や保育所出身が多く、LDやADHDのこども達への適切な教育を早期に開始するためにも、小学校入学前に各施設との連携は今後の課題としてあるようです。健康面や学習面が学校教育の上で問題となる児童・生徒の情報交換はそれなりのことがなされているようです。

一方、学校運営上で問題が少ないとされていた予防接種歴の情報把握には不十分な所があるようです。この6月に京都市の私立中高一貫校で麻疹が流行しました。まず、この情報そのものが、市立や府立の学校に十分に伝えられたのでしょうか。クラブ活動などで交流のあった一部の中学校や高校では、その飛び火を心配して大慌てで関係した生徒の麻疹の接種歴・既往歴を調べ直しました。幸い感染の拡大は今のところ出ていないようです。学校医会は教育委員会の協力を得て、小学校入学前の11月頃に行なわれる就学時検診で予防接種歴を確認し、定期接種もれがある時には、その接種を奨める活動をしていますが、その情報が入学してから学校としてうまく活用されているのか、少し疑問があるようでした。また、接種歴の情報が小中高校と継続的に伝えられていないことが明らかとなりました。この点は是非改善が図られるべきです。進学する学校に送付されることになっている健康診断票(最近、皆様のお手許

に届いた「学校医の手引き」－社団法人京都医師会平成19年3月発行一の13頁を参照）に、接種歴や罹患歴が加われば殆ど解決するのですが、法的なこと事務的なことなど同席していた教育委員会の方で検討して頂くことになりました。

私達が内科検診をする時には、児童、生徒の健康状態をよく知っているよりも知らない方が圧倒的に多いわけです。そのため、健康診断票あるいは保健調査票などから健康状態の情報を抜粋したクラス全員の一覧表を参考にしながら検診しているのが実状です。少しでも疑義があれば、原本の確認を行っていることと思います。個人情報保護に配慮しつつコンパクトに情報の入ったものを利用したいものです。総合支援学校では現場の必要度に応じてか、平成16年より各学校に共通した書式による生徒の健康状態の調査をしているそうです。一般の幼稚園・学校でもこれに倣って必要不可欠な情報の漏れがなく、しかも、次に進学する学校に役立つ型式のものが出来るように検討したいところです。

耳鼻科からは、自閉傾向があったり発達遅延のため聞き分けのない児童・生徒への耳鏡や鼻鏡の検診は危険を伴うことがあり、無理に強制できないこともありうるとの意見がでました。それに対して呉竹総合支援学校から、そのための工夫はしており、ノウハウをもっているとの返事がありました。内科校医でも検診で工夫を要する事例もあると思います。その時には参考意見を求めてもよいのではないのでしょうか。

今回は専ら学校医会からの質問が目立ちました。小学校長会・中学校長会以外とは初めての会合であり、各団体が各2名、私達が8名では質問しづらかったのかも知れません。しかし、交流を図るという点では成果が得られたと考えてよいようです。各団体間での連携、その中で校医の果す役割を考えた時に、健康診断票や保健調査票を活用して、こども達の健康状態を継続して把握できるように改善する必要性が見えてきたように思います。

産業医研修のお知らせ

副会長 平 位 喜七郎

京都市学校医会では京都府医師会と共催で、本年度も産業医研修を行う予定です。研修は学校医の職務に関するもので、給食設備の職場巡視の見学を予定しています。施設の性格上参加は学校医のみとし、いずれも1会場3名程度で、時間は約1時間、実地研修1単位が取得できます。複数会場の参加も可能ですが先着順を原則といたしますので、ご希望の先生方は学校医会事務局（TEL.256-0351、FAX,241-3568）までご連絡ください。

会 場	地 区	日 程	時 間
醍醐西小	伏見	9月3日(月)	2:30～3:30
紫竹小	北	9月4日(火)	2:30～3:30
待鳳小	北	9月5日(水)	2:30～3:30
池田東小	伏見	9月11日(火)	2:30～3:30
大宅小	山科	9月12日(水)	2:30～3:30
修学院第二小	左京	9月13日(木)	2:30～3:30
小栗栖宮山小	伏見	9月14日(金)	2:30～3:30
伏見板橋小	伏見	9月19日(水)	2:30～3:30
神川小	伏見	9月21日(金)	2:30～3:30
美豆小	伏見	9月26日(水)	2:30～3:30

なお、本年度も給食施設の建設時期順により対象校の地区が集中いたしました。ご理解いただき、多くの参加を期待いたします。

第3回 常任理事会

平成19年7月7日
於 事務局

出席者 長村会長、奥村、平位副会長、林専務理事、井上・藤田・竹内・青木・蘆原・福持各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、星谷耳鼻咽喉科理事

・会長挨拶

<報告事項>

1. 市教委との懇談会 6/9 (長村)
今月号参照
2. 第24回京都府歯科保健文化賞表彰式
6/10 (長村)
京都府下の学校歯科保健及び母と子の健康の歯の表彰
3. 精神衛生研究会 6/14 (平位)
8名の参加
4. 創立100周年事業委員会 6/15 (長村)
式典会場は京都オークラホテル、案内状は7月末までに郵送、表彰者を選定中
5. 三師会 6/16 (長村)
京都ウェスティンホテルにて
6. 子供の心とからだ講演会 6/23 (林)
本能寺会館にて、毎年行ってきた講演会としては最高の出席者数
(校医、養護教諭とも各80名近く)
7. 第54回近畿学校保健学会 6/23 (長村)
8. 心臓相談 6/6 (林)
運動誘発性心室頻拍の小6の男子、この日は不整脈はなし E可の指導
9. 腎臓相談 6/26, 7/3 (藤田)
2名と3名
10. ワンポイント相談 6/28 (平位)
2名のLDの相談
11. 人づくり21世紀委員会企画部会
6/29 (長村)

エイズ教育にとり組むこととなった

12. 校園長部会との懇談会 7/7 (長村)
今月号参照
13. その他
東山中学・高校で7名(市内3名、府内4名)の麻疹

<協議事項>

1. 養護研究部会との懇談会について
健康診断票に予防接種歴の記載が可能か不定愁訴のこども達に対する保健室での対応について
2. 人づくり21世紀委員会の件
エイズ予防の啓発活動にとりくむ
7/24の会議には、学校医会から林が出席
3. その他
特別支援教育での校医の出番は

<関連学会・各種協議>

1. 腎臓相談 7/10
2. 第29回近畿学校保健連絡協議会
7/12 (神戸市)
3. 精神衛生研究会 7/12
4. 色覚相談 7/17 8/24
5. 創立100周年事業委員会 7/20
6. 右京支部会 7/21 (長村出席)
7. 養護研究部会との懇談会 7/21
8. 人づくり21世紀委員会 7/24 (林出席)
9. 水泳記録会 7/26 (奥村出務)
10. ワンポイント相談 7/26
11. 第1回全理事会 8/4
(天喜、5:00pm~)
12. その他